



ビハーラ山陰

第11号【令和7年3月31日】

発行元
事務局

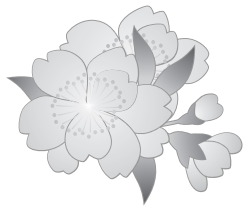
浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

ビハーラ仲間募集中!



ビハーラ山陰
会長 武田正文



コロナ禍以降、以前のようなビハーラ活動を継続することが難しく、改めてビハーラの方向性を模索しておりました。昨年度の公開講座では、出雲からはじまり世界から注目されているコミュニティナースの矢田明子先生をお招きして「お寺の可能性」についてお話しいただきました。

当たり前だと思っていたお寺と地域とのつながりも、別の視点から見れば、社会の支え合いのご縁を広げる場として最適なものになるようです。

ビハーラは生老病死をテーマとしており、ターミナルケアや高齢者に限っているのではなく、私たちの人生全体を仏教の視点から見つめなおす活動であるとも言えます。過疎高齢化が進むなか、どうしてもネガティブな言葉に触れる機会が多いところですが、矢田さんのお話からは、前向きにビハーラ活動をとらえなおす視点を学ぶことができました。

この1年間は、世界の様相が大きく変わり始めたかのような雰囲気を感じずにはおられません。ウクライナの戦争、トランプ大統領の就任、フジテレビの問題、AIの進化などたくさんのニュースから、時代のうねりが見て取れるかのようです。

親鸞聖人の生きておられた時代も、飢饉や地震、大火事が続き、貴族の時代から武士中心の戦いの時代へと変遷する激動のタイミングでした。おそらくは今、私たちが生きている世界とも共通するところがあるのだと思います。変化の時代には、私たちの生きる意味が見失われ、さまざまなメンタルヘルス不調が増えてくることが予想されます。

ビハーラ山陰においては、この時代における生老病死といかに向き合い、そして、私たちが心豊かに生きるために何ができるのかを前向きに考えていきたいと考えております。会員も減少傾向ではありますが、ぜひともお仲間に加わっていただき一緒にビハーラ活動を推進いただけると嬉しいです。



第12回ビハーラ活動第4連区集会

と き 2024(令和6)年11月18日(月)～19日(火)

と ころ 本願寺広島別院

講 師 坂口健太郎先生(あそかビハーラ病院 医師)
成田智信先生(ビハーラ活動推進委員会委員、東京教区 鎌倉組 善了寺住職)

新型コロナの影響もあり、集合しての連区集会は6年振りとなりました。「次世代へつなげるビハーラ活動」をテーマに講演いただき、分散会では参加された方の疑問や思いなどを話しました。

第12回ビハーラ活動第4連区集会に参加して

出雲組 通傳寺 西谷早苗

第12回ビハーラ活動第4連区集会に参加いたしました。

あそかビハーラ病院の坂口健太郎先生から「ビハーラ医療の現場から」と題しお話しいただきました。誰もが必ず死をむかえることは知っています。しかし、死についてなかなか話し合うことが難しい現状であり、家族と最期をむかえるにあたって延命治療、人工呼吸器の使用のことなど元気なうちから話し合っておくことで、自分が望むカタチに近い最期をむかえることができるのではないかとお聞きしました。厳しい医療現場でのことをユーモアを交えながらお話しいただきました。

東京教区鎌倉組善了寺住職成田智信先生からは、「ビハーラ活動の四つの柱～令和6年能登半島地震支援活動から学ぶ～」と題しお話しいただきました。ビハーラ活動とあるように、「活動」することが大切であり、個人での活動、団体での活動、まずできるところから始めることが大切であるとお聞きしました。「活動」「場の提供」「人を大切にする」「学び」の四つの柱を中心にお話しいただきました。先生はまさにこの「活動」を実践しながら被災地支援など多くの場へ足を運んでおられ、頭の下がる思いでお聞かせいただきました。

また、他教区の方と交流させていただき、各教区での様子や個人での活動や思いを伺うことができました。

ビハーラ活動は、多岐にわたります。その中に掘りどころとなる浄土真宗のみ教えが有り難いと感じる研修会となりました。

また、添付の資料に、能登半島地震支援センター「こころのケア」が新たに開始され傾聴ボランティアの募集が始まったとありました。資料には、しない方がいいこと、気をつけてほしいこととあり、「かわいそうに」「頑張って」「あなたのお気持ちわかります」などといった言葉を言わないとありました。つい自分の考えや想いを言いたくなるし、励ましたいとの想いを口に出してしまいそうで、傾聴の難しさを感じました。一言にボランティアといってもたくさんの種類があります。小さなことでも自分にできる何かを実践していくこと、風化させないことが大切だと改めて思いました。



公開講座

と き 2025(令和7)年2月20日(木)

と ころ パルメイト出雲

講 師 矢田明子 氏(株式会社 CNC 代表取締役)

テーマ コミュニティナースと考えるこれからのお寺の可能性



ナースという言葉から、看護師などの資格や職業をイメージされる方も多いかもしれませんが、「コミュニティナース」は資格や職業は関係なく、誰もが実践できる行為・あり方です。病院の外での毎日の生活のなかで、地域住民とのコミュニケーションを通し、個々の変化に気づいていく、病気になってから病院に行くのではなく、元気なうちから普段の生活のなかで顔を合わせることで、人や地域が元気になっていくという事業です。

具体的には、ガソリンスタンドに来られた方に対し、少しの時間で何気ない会話から普段と違うところはないかを発見するなどといったことです。すでにこの活動は日本全国でひろまりつつありますが、このたびの講座では、「お寺」という場所にご門徒の方や地域の方が集まる場所であり、その特性を生かしたコミュニティナースの方法などについてお話をいただきました。

「地域を支え、誰かの元気に貢献するお寺の在り方を考える」

松江組 團 憲一

浄土真宗本願寺派で「弥陀の慈悲にすがら」というのは、自身の立身安寧のために願って祈るということではなく、阿弥陀如来の願いによって皆がお慈悲に包まれ、浄土へ往生させていただくことと受け止めている。そのなかで各々が応分の尽力をそれぞれの立場や部署で行うことで、他の誰かを扶けて、その結果として社会が底上げされることが、み仏の心にかなうことであろう。

そのうえで、研修会で提言された「コミュニティナース」、すなわち看護の専門家ではなくても、それぞれが役割をもち、誰かに必要とされて、地域を支えて他を元気づける「手当て」というのは、私たち誰もが可能である、浄土に向かって歩む仏道の実践であろう。

地域を手当てし元気にする「おせっかい」は、誰もがいつでも始めることができ、人は必要とされることによって何にでもなれる可能性を秘めている。

そこでお寺はその契機をつくるうえで、日頃から地域との多面的な接点があるので、とても有効な「企画者」となって後押しができる。

今は核家族化や個人主義が広がり、社会の課題解決がともすれば「自己責任」へと傾きがちなものではあるが、これを押しとめて再び地域社会で扶け合っていた頃の日本、島根へと立ち還ることが必至であると感じる。

そのなかでお寺は地域づくりの核として、無限の可

能性を秘めた社会的セクターのひとつとして、古くて新しい形で再生することができるし、そうでなくては持続すら難しい。

戦後80年かけて日本の医療は、体が悪くなったときにはじめて医療介護の専門職が「手当て」をするという体系を作りあげてきたとの話があったが、この仕組みは今日では破綻しつつある。したがってこれからは、元気なうちから地域のなかでお互いのことを理解しあい「はいよろこんで!」と言って扶け合っていたあの頃の時代に戻していかなばならないのである。

自らが支えてもらっている実感とともに、誰かの元気に貢献できる喜びが、自己肯定感を高め合う好ましい循環となっていく、これこそがこれからのお寺の可能性ではないだろうか。





ビハーラ山陰 総会・研修会

とき 2024(令和6)年6月11日(火)

ところ 本願寺山陰教堂 教化センター 研修室

講師 堀西雅亮 師 (ビハーラ山陰 副会長、神門組 眞宗寺 住職)

テーマ ビハーラの広がり ～「多様な私たち」の安心～

総会では令和5年度の事業報告・決算報告に続き、令和6年度の予算・事業計画について協議いたしました。これからは、山陰内で活躍されている方の話を聞き、地域とビハーラの関係築きかけを探る研修会や講座を企画してはどうかとのご提案もいただきました。

研修会では、ビハーラ山陰副会長の堀西雅亮師より、「ビハーラの広がり～多様な私たちの安心～」と題しお話をいただきました。

近年、外国からの移住者が増え、ことばや文化が多様な社会となるなか、どのように話しかけたらいいのかわからず、結果として日本人が壁を作ってしまう、また、何気ない一言で傷つけてしまったりする場面があります。病の苦しみや死への不安は移住してきた方も同じであり、人々の苦しみに共感し、積極的に社会にかかわっていくことを理念とする「ビハーラ活動」においても、多様な社会に生きる私たちにとっての安心とは何か、私たちに何ができるのかをお話いただき、会員同士でも話し合いました。



ビハーラ山陰 総会・研修会 ご案内

とき 2025(令和7)年7月8日(火)

ところ 本願寺山陰教堂

講師 朽畠宏樹 師 (ビハーラ山陰 理事、益田組 専光寺 住職)

令和6年度の事業報告・決算、令和7年度の事業計画・予算を協議後、研修会を開催いたします。会員の皆さまのご参加をお待ちしております。



編集後記

先日、ビハーラ第4連区協議会が開催されました。そのなかで各教区の活動について報告する時間がありましたが、どの教区もコロナの影響で施設訪問ができなくなり、また、会員の高齢化などにより活動が衰退してしまっているとのことでした。そんななか、年に数回の研修会を行ったり、会員が交代で傾聴活動を行ったり、新たに訪問できる施設を探したりされている教区もありました。そして、今後そういった活動や研修会に他の教区から見学等の形で参加できないかと提案があり、了承されました。

これからは教区間での連携も深め、それぞれの活動についても学ぶ機会を増やしていけるよう企画してまいります。

(事務局)